

◆あす大学生の就業体験考えるシンポ 大学生の就業体験（インターンシップ）の重要性について考える「インターンシップシンポジウム in 福岡」（経済産業省など主催、西日本新聞社後援）が二十一日午後一時十五分～同六時、福岡市中央区天神の福岡国際ホールで開かれる。

米国ニューヨーク大学から、企業と学生のつながりとなる専門家を招くほか、デジタル技術を使った映像、音楽、ゲームなど「デジタルコンテンツ」産業での活躍を目指す九州大芸術工学研究院の大学院生と、大学院生が研修を行った福岡、東京、韓国の企業や研究所などの担当者らが参加し、それぞれ講演。インターンシップの意義と役割がテーマのパネルディスカッションも開く。参加無料。問い合わせは同研究院「先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニット」092（553）45779。

きょうインターンシップシンポジウム

講演する米国大学職員来社

二十一日に福岡市・天神で開かれる「インターンシップシンポジウム in 福岡」（経済産業省など主催、西日本新聞社後援）で基調講演をする、米ニューヨーク大の就業体験担当職員、ステイファン・コネルさんが二十日、天神の西日本新聞社



を表敬訪問した写真。

コネルさんは、学生と企業との橋渡し役を担うインターン・コーディネーターとして、年間約四百人の学生を企業に派遣している。制度化途上にある日本の課題としてコネルさんは「企業がインターンシップをなぜ必要と思わないのか、その理由を明確にすべきではないか」と指摘した。

シンポは二十一日午後一時十五分～同六時、福岡国際ホールで。無料。

インターンシップ 福岡でシンポ開催 九大院生ら成果発表

大学生の就業体験（インターンシップ）の社会

的役割などを探る「インターンシップシンポジウム in 福岡」（経済産業省など主催、西日本新聞社後援）が二十一日、福岡市で開かれ、大学生や企業関係者ら約六十人が参加した。

昨年、デジタルコンテンツ関連企業などで研修した九州大芸術工学研究院の大学院生八人が成果を発表。インターンシップのあり方について、企業訪問の前後にも研修に取り組んだり、企業研修中に学生同士で情報を交換したりすることで成果が上がると報告した。

パネルディスカッションには米国ニューヨーク大学のインターンシップ担当職員のほか企業や国の担当者らが参加。未来の人材育成への投資として、産官学が連携して長期的にインターンシップに取り組む必要性がうたわれた。